

銀行創業

第一国立銀行は、小野組・三井組がそれぞれ百万円ずつを出資し、他の一般株主が四十四万二百円を出資、合わせて二百四十四万二百円をもって資本金としました。頭取は小野・三井両組からそれぞれ一人ずつ出し、支配人・取締役も両組から同数ずつ出すという変則的な組織でした。両者の権衡を図るため、栄一が頭取の上に立つてこれを指導することにになりました。この時栄一が出資した金額は四万円でした。

こうして緊急事態を受けて、栄一は、小野組資産の押収に奔走します。この時、小野組系方の責任者であった古河市兵衛は自らの全財産を投

げ打って栄一の信頼に応えました。これを契機に両者の間には揺るぎない盟友関係が築かれることになりました。

何とかこの危機を乗り切った栄一ですが、今度は三井組が第一国立銀行の乗っ取りにかかります。栄一は、銀行という組織は、お金の流れをつくり、仕事を生み出し、多くの人々の暮らしを潤すべきものであり、一身一家を富ますためのものではないことを力説。大蔵省紙幣頭得能良介の理解と支援も得ます。結果としては、四万円の株主である栄一が百万円の株主である三井組をねじ伏せることになりました。明治八年（一八七五）八月一日、栄一は新たに頭取に就任し、ここに再出発を果たすことになりました。

物語の手引き

『小野組の破綻』

小野組の破綻により、第一国立銀行も重大な危機を迎えました。そこで、栄一は、小野組系方の責任者古河市兵衛に「第一国立銀行は、日本の発展に欠かせないものだ。日本を救ってほしい」と融資の返金を懇願。市兵衛は潔く栄一に協力し、個人の資産まで差し

出し、第一国立銀行に被害が及ぶのを防ぎました。

『得能良介』（1825 - 1883）
旧薩摩藩士。大久保利通の推挙で大蔵大丞に任ぜられますが、明治5年栄一と衝突し司法省へ。明治7年に大蔵省へ復帰し、紙幣頭として国立銀行条例の改正や、初代印刷局長として国産紙幣の製造などに尽力しました。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

深谷が生んだJリーガー



キラリ熱・中・時・間

～プロサッカー選手 川田修平さん～

今年、深谷出身のJリーガーが誕生しました。J-1の大宮アルディージャと契約を交わした川田修平さん（18歳）。ポジションはゴールキーパー、背番号35。サッカー人生の幕開けは、小学校2年の時。3歳上の兄と一緒に豊里サッカースポーツ少年団に入団しました。中学生になると、より高いレベルを目指したくて、FC深谷に進みます。ほぼ毎日、成塚から仙元山グラウンドまでの往復約15kmを自転車で通い、練習に没頭。「県内では自分の右に出るキーパーはいない」と考えるまでになりました。

高校時代はユースの練習でサッカー漬けに。朝7時に家を出て、帰宅は夜11時過ぎ。積み上げてきた成果は、U-16・U-17の日本代表候補という形で表れました。今年、J-1入りできた高校生は全国で40人弱。選抜されたつわものたちが競い合うフィールドで「技術を磨き、チームに信頼される正ゴールキーパーになりたい。そして、いつか日本代表に」と、気合十分です。

15の時から追い求めて、届きそうて届かない「日本代表」の座。3年後のリオ五輪への思いは、日々強くなっていきます。



▲現在、4人のゴールキーパーが在籍。正ゴールキーパーを目指し奮闘中（大宮アルディージャ練習場）

ありがとうの手紙



最優秀賞
小学校低学年の部
おとうさんへ

常盤小学校2年 吉橋沙亜耶さん

おとうさんのおひざの上は、わたしのまほうの場所です。

わたしが学校でいやなことがあったときとか、おかあさんにおこられたときに、いつもおとうさんのおひざの上にすわります。そうするとだんだん元気がでて、なみだがとまって、またがんばれるんだよ。

やさしいおとうさんが大好きです。あったかいおひざの上がきもちよくて大好きです。わたしのとくべつな場所よ、ずっととっておいてね。

情熱農力

さらなる1歩



江黒 繁雄さん（35歳・堀米）

全国2位の収穫量を誇る深谷産キュウリ。それを支えるキュウリ農家の江黒さん。春に3.5反、秋に3.8反のハウス栽培をしています。品質安定のため、特に温度調整に気を配り、形が悪いものや葉をバランス良く摘み取ります。最盛期に1日2回収穫し出荷するのが大変。でも、よく出来た時はうれしいし、作業もはかどります。「両親が築き上げたものを守りながら、自分のやり方を見つけていきたい」就農11年目、さらなる1歩を踏み出そうとしています。